みんなのひろば

▲▶「第24回市民文化フェア」が開催されました。満開の桜と暖かな春の日ざしの下、大勢の来場者でにぎわいました。所沢航空発祥記念館では格納庫が公開され、ヘリコプターや飛行機に搭乗し、記念撮影をする家族連れもいました。
4月4日(土)、5日(日)／所沢航空記念公園
撮影／市民カメラマン・塩野入好文、岩田洋一

◀▲所沢の魅力を広く市内外に発信し、市のPRや観光振興等を図っていただくために「埼玉ブロンコス」と「JULEPS」に所沢市観光大使の委嘱が行われました。
4月12日(日)／市民体育館
撮影／市民カメラマン・村田ひろこ（左）
4月15日(水)／市役所1階市民ホール（上）

▲毎年恒例の「お花見昼食会」が行われました。桜の下で食べるお弁当の味は格別のようで、子どもたちの会話にも花が咲き、みんなで楽しいひとときを過ごしました。
4月3日(金)／さくら児童館

誰でもエッセイ

◆テーマ「思い出の味」

肉うどん

東所沢　田村　結子

大学生のとき学生食堂で食べた、肉うどんの味が忘れられない。甘めのだしで煮たお肉とうどんのつゆが抜群の相性で、友人と競って買いに走った。でも本当の思い出は、その肉うどんを一緒に食べた友人との語らいだ。一生の友人に出会えた春に、どうしても食べたくなる味なのだ。

ちらしずし

小手指町　原　京子

私が幼かったころに、母が作ってくれたちらしずしはとても美味しかった。お誕生日やひな祭りなど行事のときに、大きな飯台いっぱいに並ぶちらしずしが私の何よりのごちそうであった。現在のようにカニやイクラなどぜいたく品は皆無で、畑でとれたお野菜中心であったが、お砂糖やお酒をたっぷり使って味はたいへんよかった。白いかっぽう着姿の母が、湯気の向こうで大きなしゃもじで混ぜながらニコニコしていたのが思い出される。私も何かあるとちらしずしを作って、孫たちに食べさせながら昔の思い出話をする。

うしお汁

中新井　木谷　陽子

十数時間のお産を終えた日「ゆっくり休むのよ」と義母は、今朝水揚げしたという（黒鯛）とじゃがいも、きざみネギのチヌ温かいうしお汁をポットに入れ、遠路はるばる義父とともに届けてくれた。はじめての出産で、疲れきった体にその温かい汁を口にした私は、安堵感で眠りについた。
あのうしお汁の新鮮な香りとほどよい塩加減は、母となった喜びとともに忘れることのできない味となりました。

さつまだんご

狭山ヶ丘　新井　由子

バス旅行の車中、昔食べた「さつまだんご」の話に花が咲きました。
戦中、戦後の重要な食べ物だったような記憶で、当時、小学生だった私には60年も昔のこととなります。ひばりがさえずる畑で家族総出の茶摘み作業のときに届く「お茶菓子持ってきたよ」の声。たくあんとさつまだんごは、あのころの思い出の味そのものです。
そんな折、思いがけずさつまだんごの粉を頂き、早速かすかな記憶をたよりにさつまだんごを作ってみました。今風に、バター、砂糖、卵等を混ぜてお友達数人と食べてみましたが、いまひとつで、あの味を呼び戻すことは無理のようでした。
思い出の味は、70歳間近の私の人生の宝物のひとつとして、心の中に暖めておくのもよいかなと思っています。

歴史再発見　ところざわの文化財 ㉝

生まれ変わる滝の城跡 ～滝の城跡の保存管理計画～

市内東部の柳瀬地区に位置する滝の城跡。廃城後400年以上の時が経ち、城山神社の中にひっそりと残る古城のたたずまいは、埼玉県指定史跡の文化財として保存は図られていましたが、その存在は残念ながらあまり知られていませんでした。
しかし、昨年7月に滝の城跡保存会が作製した復元模型により郷土の文化財に対する愛着と誇りを呼び覚ますところとなりました。
特に昨年12月から今年4月にかけて市役所1階市民ホールで展示した復元模型は、多くの人々の目に留まり、たいへん好評を博しました。「市内での城跡の存在を初めて知った」、「文化財に対する愛着が生まれた」といった声とともに、現地での見学会や学習会、さらには城跡整備を望む声も寄せられました。
所沢市では、郷土の貴重な文化遺産である滝の城跡をより身近に感じていただくため、平成20年度に「滝の城跡保存管理計画」を策定し、滝の城跡を後世に渡って保存・活用するための将来像を描きました。今年度はその将来像を基に、城跡の整備を徐々に進めていく予定です。
なお、5月23日(土)には、現地見学会を行います。詳しくは『翔びたつひろば5月号』をご覧ください。
問い合わせ　文化財保護課（☎2998－9253）

エコ・モビリティでいこう！

新連載

今号から、エコ・モビリティを通して、温暖化対策に役立つ情報を掲載していきます。地球のため、私たちの未来のため、日ごろのライフスタイルを見直してみましょう。

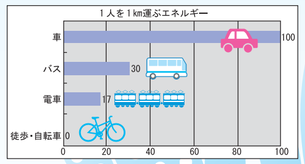
エコ・モビリティとは……

◆エコ・モビリティ（Eco-Mobility）の意味

環境にやさしい移動の仕方を意味する言葉で、車（マイカー）に頼ったライフスタイルを見直して、歩いたり自転車に乗ったり、バスや電車などの公共交通機関などを適切に利用することです。

所沢市は、**エコ・モビリティ**に取り組んでいます。

◆一人を1㎞運ぶのに必要なエネルギー（車を100としています）

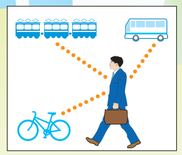


左図は、乗り物別の移動にかかる消費エネルギーです。

エネルギーが多いということは、それだけ地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスを排出していることになります。

出典：所沢市地域省エネルギービジョン

◆日ごろ、車の利用が習慣化していませんか？



車は便利な乗り物で、生活にとけこんでいますが、たまには歩いて出かけたり、電車で出かけたり、移動距離や交通の混雑状況等に合わせた移動の仕方や利用方法を考えてみましょう。

車をかしこく使うことで、**『環境』**にも**『健康』**にも**『お財布』**にもやさしい暮らしにつなげていきましょう。

エコ・モビリティとは、環境にやさしい移動の仕方を意味する造語です。

みんなで止めよう温暖化　チーム・マイナス6%　所沢市は温暖化対策をすすめます

問い合わせ　環境総務課（☎2998－9133・FAX2998－9394）

皆さんからの写真や投稿をお待ちしています！

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント（約60字）を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『子育て』▶文章は添削あり▶締め切りは**5月7日(木)必着**▶掲載者には記念品を進呈
◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木1－1－1所沢市役所広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール（アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）でご応募ください。

はつらつ野老（ところ）っ子

子どもたちの健やかな成長を願って

富沢　のり子さん（北秋津在住）

皆さん、お人形はお好きですか？今回は創作人形・吊りびな作家の富沢のり子さんを紹介します。なぜ人形は幼児から年配者まで幅広く好かれているのでしょうか。その問いに「人形は、見る人それぞれの心に優しいメッセージを伝えているからでしょう」と富沢さんは答えます。

その昔、伊豆半島へ旅行に行った折「吊りびな」と出逢い、富沢さんは深い感動を覚えました。数十点にも及ぶかわいらしい色とりどりのひな人形と鳥や動物など50体の人形が一つになった吊りびなは、華やかで優しい空間を演出していたのです。しかもその人形たちは、着物の切れ端などで作られていました。「これこそが私が求めていた人形。表現力豊かで個性的な人形を心を込めて作りたい。それは創作人形に生涯をかける私の決心でした」と、そのときの感動を振り返ります。それから20年以上も創作人形の道を歩んできました。

現在、富沢さんは市内で『創作人形と吊りびな教室』を主宰しています。毎年2月下旬に第二市民ギャラリーで開催する展示会も7回目となり、今年は鶴と人形約3000体を展示しました。ここ数年は、3000人にも及ぶ来場者を迎えています。

富沢さんの創作活動は、夫からの一言で転機を迎えます。あるとき「心を込めて作った人形ならば、きっと社会の役に立つはず。身内で楽しんでいるだけでは、ただの遊びだ」と夫に指南されます。それ以降、富沢さんは子どもたちの健やかな成長を願って、教室の生徒さんたちと作った大きな吊りびなを毎年市内の保育園に寄贈したり、心を癒やしてもらおうと老人ホームに飾ったりしています。

また、所沢はもともと羽子板やひな人形の有数の生産地でもあり、街の活性化のために自分たちの創作人形が役に立てれば…と、富沢さんには夫とともに描いた夢があります。それは市内の各駅に季節ごとの人形をたくさん飾り、乗降客に楽しんでもらおうという計画です。

今は亡き夫との夢を実現させるため、今日も富沢さんの人形作りは続きます。